令和3年度 第13回 周南市総合教育会議 会議録

1日 時 令和4年3月22日(火) 開 会：13時00分

閉 会：14時25分

2場 所 周南市岐山1丁目1番地

周南市役所 庁議室

3出席委員 藤井律子市長 厚東和彦教育長 松田福美委員 片山研治委員

岡寺政幸委員 吉本妙子委員

4事務局 教育部長 企画部長 企画部次長(企画課長)

教育部次長(教育政策課長) 生涯学習課長 人権教育課長

学校教育課長 学校給食課長 中央図書館長 企画課企画担当係長

5書 記 教育政策課(担当課長補佐、主査)

6協議事項

順位	件 名
1	令和4年度教育委員会の重点施策について
2	教育委員会におけるICTの活用について

●事務局

ただ今から、「第13回周南市総合教育会議」を開催いたします。

はじめに、会議の主催者であります市長の方から、開会にあたっての挨拶をお願いいたします。

●市長

皆さま、こんにちは。市長の藤井でございます。本日は、本当に年度末のお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。また、皆さま方には、いつも本市教育の充実、発展の為に、お力添えをいただいておりますことに、深く感謝いたしております。ありがとうございます。

さて、今年度は、令和2年から続くコロナ禍により、休校や学校行事の中止・縮小、市民センターや図書館など公共施設の臨時休館等、教育の現場でも様々な影響がございました。

こうした、社会全体の大きな変化の中にあっても、学校・家庭・地域・行政の緊密な連携のもと、子ども達を慈しみ育てていくことが重要でございます。この取組こそが、未来を担う子ども達が心豊かにたくましく生きていく為の「生き抜く力」を育むことに繋がる、と確信をしております。

さて、この「総合教育会議」におきまして、広範な教育行政について、皆さまと議論を重ねることで、効果的な施策の実現に繋げてまいりたいと思っております。

本日の会議では、「来年度における教育行政の重点施策の取組」と「教育委員会におけるICTの活用」の2つの議題について、皆様方の忌憚のないご意見を伺いたいと思っております。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたし上げます。

●事務局（教育部長）

先に資料の確認をさせていただきたいと思ひます。まず表紙と次第ですね、それから「令和4年度教育委員会の重点施策について」の5ページものの横長が一つ、それと、各課が抽出した6事業について、11ページものですが横長の、2つあろうかと思ひます。それと、協議2の「教育委員会におけるICTの活用について」という資料が8ページもの、生涯学習課と学校教育課と図書館になっております。よろしいでしょうか。

それではこれからの議事の進行につきましては、周南市総合教育会議設置要綱の規定によりまして、市長が行いますので、市長よろしくお願ひいたし上げます。

1	令和4年度教育委員会の重点施策について
---	---------------------

●市長

それでは、早速ではございますが、次第に沿って、進めさせていただきます。

まず協議のカッコ1番「令和4年度教育委員会の重点施策について」です。事務局から説明をお願ひいたします。

●事務局（部長）

それでは、「令和4年度教育委員会の重点施策について」と、そのなかから抽出した6事業についての資料をお願ひいたします。

令和4年度における重点施策は、全部で19事業ございますが、時間の関係もありますことから、そのうちの6事業につきまして、担当課長のほうから説明させていただきます。よろしくお願ひします。

●事務局（教育政策課長）

教育政策課所管の、令和4年度小中学校改修事業について、ご説明いたします。資料の1ページから3ページをお願ひいたします。はじめに、令和4年度に実施する小中学校の改修事業費ですが、令和3年度からの繰越事業を含めて、小学校が4億5千915万7千円、中学校が2億9千766万4千円の計7億5千682万1千円となっております。

本年度も昨年度と同規模の経費を確保しており、文部科学省の交付金、地方債及び子ども未来夢基金といった財源を活用し、一般財源の抑制を図りながら、予算を編成しております。それでは、小学校、中学校ごとに、事業内容をご説明いたします。

まず、小学校改修事業ですが、これまでも喫緊^{きつ きん}の課題となっております、屋上防水、外壁、照明器具の改修及びトイレ改修を継続して実施いたします。具体的には、岐山小学校管理・教室棟トイレ改修、周陽小学校照明改修、富田西小学校管理・教室棟外壁及び防水改修、富田西小学校屋体防水改修、高

水小学校普通・特別教室棟外壁及び防水改修、大河内小学校管理特別普通教室棟トイレ改修、大河内小学校水道接続工事、遊具改修工事、さらに、鹿野小中一貫校空調設備移設に取り組んでまいります。

次に、中学校改修事業ですが、小学校と同様、喫緊の課題であります、屋上防水、外壁、照明器具の改修を継続して実施いたします。具体的には、秋月中学校管理教室棟外壁及び防水改修、住吉中学校照明改修、周陽中学校普通教室棟外壁及び防水改修、須金中学校排水溝改修に取り組みます。引き続き、児童生徒が安心して快適に学べる教育環境を確保する為、「周南市学校施設等長寿命化計画」に基づき、施設に不具合が生じた後に対応する「事後保全型」の管理から、施設の改修時期を踏まえて対応する「予防保全型」の管理へ転換を図りながらも、雨漏りや、外壁の剥落などが見られる施設は、改修年次計画にとらわれずに、優先的に整備を進めてまいります。

以上で説明を終わります。

●事務局（生涯学習課長）

続きまして、4ページをご覧ください。生涯学習課から、学校・家庭・地域の連携協力推進事業について、ご説明いたします。この事業は、図にお示ししておりますように、中学校区を単位に、コミュニティ・スクールを核として、幅広い地域住民の参画を得て、学校・家庭・地域が連携・協働することによって、子ども達の学びや育ちを見守り支援する活動を推進するものです。令和4年度は、引き続き3点の取組を進めます。

1点目は、「地域と学校の連携・協働」の推進でございます。中学校区ごとに学校長から推薦をいただき、教育委員会から「地域学校協働活動推進員」を委嘱した方々に、地域と学校を結ぶ役割を担っていただいております。推進員に地域のキーパーソンとして活躍していただけるよう、情報交換の場やコーディネート力向上に繋がる研修の開催など、活動の支援に取り組めます。

2点目は、「家庭教育支援」の推進でございます。これは、子どもの教育や子育てに関する悩みを抱え、孤立しがちな保護者を支えるものであり、地域のボランティアである6つの家庭教育支援チームによる、就学時健診などの機会を活用した教育相談などに、取り組んでまいります。

3点目は、「放課後子供教室」の実施でございます。放課後子供教室は、参加を希望する児童に対して、地域の実情に応じた形で回数や内容を定め、さまざまな体験活動ができるよう、地域のボランティアの皆様との協力のもと32教室を運営しております。令和4年度も運営の充実を図るとともに、「児童クラブ」との一体的な実施の推進に、取り組めます。なお、ボランティアによって運営し、学びの場である放課後子供教室とは別の事業として、児童クラブ事業がございます。児童クラブは、放課後子供教室とは異なり、保護者が就労等により保育できないなどの理由がある児童に対して生活の場を提供するもので、市職員による25クラブを運営しております。現在、厚生労働省と文部科学省が連携して「新・放課後子ども総合プラン」を策定し、児童

クラブと放課後子供教室との一体的な実施を推進する方針を示しており、本市におきましても、同じ小学校敷地内などで一体的な実施を推進し、子ども達に、安心・安全な居場所を提供することに努めてまいります。

以上で、生涯学習課の主な事業の説明を終わります。

●事務局（人権教育課長）

人権教育課から人権教育講座運営事業について、ご説明いたします。この事業は、市民の人権尊重の意識の涵養^{かんよう}を図ることを目的に、市内各所でハートフル人権セミナーを開催するものです。

資料 5 ページをお願いします。構成は、基礎講座と専門講座の 2 本立てです。まず、基礎講座は、本課職員が作成したこのオリジナルマップを活用し、参加者に人権の視点から見てよい点、ちょっと気になる点を発見してもらいアイスブレイク的に、身近な人権問題について考えていただく内容となっています。

資料 6 ページをお願いします。次に、専門講座は、山口県人権推進指針に基づく 16 の分野別施策の中から、子ども、障害者、高齢者など、様々な人権課題を取り上げ、主に行政関係の方々を講師に、現場の状況や取組、現場の声など、実践的な活動内容を紹介していただいています。参加者は、地域の P T A や民生・児童委員、個人の方々など様々で、コロナ禍ではありますが、安心して受講いただけるよう、受講者数の制限、飛沫防止^{ひまつ}パネルの設置、検温等々、感染防止対策をしっかりと講じてまいります。

さらに、会場に参加できない方へ、市ホームページでオリジナルの人権啓発動画「おうちで学ぶ人権講座」3 本を配信し、自宅での学習機会を提供しています。

令和 4 年度は 16 か所でのセミナーを計画し、特に、大河内小では、周南公立大学の留学生を講師に外国人問題を、今宿小・岐陽中では、子どもから大人まで関わりの深いインターネットにおける問題を取り上げ、学校、家庭、地域住民が、互いに学び合う機会を持つことで、一体的な人権意識の高揚に努めてまいります。

最後に、本セミナーは、リピーターが多く、そういう方々からの人権尊重の輪が広がることを期待する一方、新規参加者獲得にも力を入れ、ホームページや文字放送、ちらし等、あらゆる手段で周知を図ってまいります。

以上で、人権教育課からの説明を終わります。

●事務局（学校教育課長）

学校教育課から、学校・家庭支援専門家配置事業についてご説明いたします。

資料の 7～9 ページをお願いいたします。児童生徒が抱えている問題の背景には、心の問題だけでなく、複雑多様化する家庭や生活環境も大きく関わっているところです。そこで本市では、現在県の補助を得て 6 名のスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒の置かれた環境への働きかけによって問

題の解決を図っております。

しかしながら、6名のスクールソーシャルワーカーが支援してきたケースにおいては、課題解決が難しい状況になってからの介入であったり、支援の対象が児童生徒からその同居家族へと広がっていったりした為、支援が長期化しております。また、年々増加する学校からの新規の支援要請への対応が難しく、保留ケースが10件以上もあるのが現状となっております。

この為、既に配置しているスクールソーシャルワーカーは問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ等、個別ケースへの支援が中心となり、学校内におけるチーム体制の構築や支援、教職員等からの相談、研修のニーズに corres pond することが困難な状況となっております。こうしたことから、個別のケースに対する支援に加え、既に配置しているスクールソーシャルワーカーへの支援や、教職員等への支援、スクールカウンセラーと連携した効果的な家庭支援等を行う為、新たに市がスクールソーシャルワーカーを1名配置することとしました。

また、既に市が配置している心の専門家であるスクールカウンセラーも本事業に位置付け、学校や家庭を支援する専門家が連携し、より効果的に学校・家庭支援を行うことによって、児童生徒の抱える諸課題の早期解決を図ってまいります。

以上で学校教育課の説明を終わります。

●事務局（学校給食課長）

続きまして、学校給食課所管分の重点施策、事業番号5「学校給食管理運営事業費」についてご説明いたします。

資料の10ページをお願いいたします。この事業の目的は、徹底した衛生管理のもと、市内6か所の学校給食センターの円滑な運営により、児童生徒に安心安全でおいしい学校給食を安定供給していくものです。各学校給食センターでは、子ども達の成長に必要な栄養価、カロリー等を考慮しながら、センターごとに特色のある献立づくりにも努めており、地産地消にも積極的に取り組み、その他アレルギー対応食の提供も行っているところです。

また、定期点検結果を踏まえた予防保全型の修繕を計画的に実施していくことで、併せて異物混入ゼロに向けた取組みを進めてまいります。令和4年度は、前年度より修繕料を増額し、予算の拡充を図ったところでございますが、今後につきましても、必要に応じた予算措置を講じてまいりたいと考えております。異物混入につきましても、減少傾向で推移しております。今後も異物混入に関する情報をしっかりと把握するとともに、給食業務に携わるもの一人一人が責任感と緊張感を持って業務に取り組み、未然防止に努めてまいります。

また、令和4年度から、周南市の学校給食センターで唯一直営であった鹿野学校給食センターの調理業務を民間委託いたします。直営から民間委託へ切り替わりますが、市の方で引き続きしっかりと管理してまいります。また、

高尾学校給食センターの調理配送業務が令和4年3月末日で契約期間終了となる為、事業者の選定を行った結果、この度、委託事業者が変更となりました。現在、民間委託を行っている5センターの建設以来、委託事業者が変更となるのは初めてとなりますが、委託事業者が変わっても市の方でしっかりと管理し、子ども達に安心・安全でおいしい給食の提供ができるよう引き続き、取り組んでまいります。

以上で学校給食課の説明を終わります。

●事務局（中央図書館長）

それでは、中央図書館の所管いたします電子図書館運営事業について、ご説明いたします。資料の11ページでございます。

現在、電子書籍を用いた電子図書館の普及が進んでおり、特に、最近のコロナウイルス対策により、図書館への来館がままならぬ状況があった中、在宅で利用できる電子図書館について、その有効性が大きく評価されるとともに、導入する市町村も飛躍的に伸びてまいりました。そのような状況の中、周南市におきましても、令和3年12月1日に周南市電子図書館を開始いたしました。現在、県内では県立図書館をあわせ、8自治体で導入されております。利用実績といたしましては、本年3月1日の時点で、利用登録者が813人、資料の貸出数がのべ2778点となっております。電子図書館を導入したことにより、図書館に実際に来館することなく利用できるという利便性の向上と合わせ、音声による読み上げや文字の色の白黒反転、文字の大きさの拡大ができるなど、電子書籍の持つ優れたアクセシビリティを活用して、紙の書籍を利用しづらかった方にご利用いただけるなど、幅広い方に対して、サービスを提供することができるようになっております。

今後につきましては、利用促進の為に、普及啓発に努めるとともに収蔵資料を充実させていくことはもちろんですが、独自のコンテンツ、例えば市の広報などを収蔵し、閲覧に供することで、市のデータベース的な役割を果たしていけたらと考えております。令和4年度予算につきましては、クラウドおよび市販の電子書籍の使用料を計上いたしております。まだ始まったばかりのシステムではございますが、従来の紙の書籍による図書館の運営とあわせ、利用者の満足する図書館となるよう、事業を進めてまいります。以上で説明を終わります。

●市長

はい。ありがとうございました。ただいま事務局から教育委員会における来年度の重点施策について説明がございました。それではここから、こうした施策につきまして、皆様方からのご意見をお伺いしたいと存じます。

松田委員さんから。はい。どうぞよろしく願いいたします。何かありましたらお願いします。

●松田委員

どれも今から取り組んでいかなければならないことを、対応していただいて

るといふうに感じております。細かいことになるかもしれませんが。教育政策課から出ました改修事業等につきまして、長期のスパンでもって事後保全から予防保全へと進めておられるようですが、今回この資料に書いてあります遊具ですね、これにつきましてちょっとお伺いしたいんですが。これは長寿命化計画の中での取組というふうに計画性を持って取り組んでいかれるようですが、現在どの位の修繕が必要で、それに対して、4年度どの程度進んでいくものか、その辺を教えてくださいたいと思います。よろしいですか。

●市長

はい、ありがとうございます。よろしく申し上げます。

●事務局（教育政策課長）

実際、長寿命化計画の方で検討させていただいたときに、遊具も ABCD ランクというのをつけさせていただきまして、特に C と D の部分ですね。その部分に関しまして、多かったのが鉄棒になります。重点的に鉄棒をまず、改修といいますか、新しくしていきたいという風に考えておりました令和 3 年度にも 1 千 300 万円予算をいただいておりますので、10 校の鉄棒の改修をさせていただきました。令和 4 年度も同じ額の予算をいただいておりますので、同じ位までできればいいんですけども、なかなか学校の規模によってですね、改修の量といいますか、数が変わってきますので、できるだけ有効的にその部分を使っていけるような形で、改修を行っていきたいと考えております。

●松田委員

要は学校単位で年度ごとに進めておられるということで、今の話を伺っていくと 4 年から 5 年位とかっていうのかなという風には思うのですが、そういうふうに計画的に進めていただくことはありがたいんですけど、やっぱり安全性の面もありますし、子ども達にとって必要なものであれば、そこに今後は重点的に力を注いでいかれるということも必要かなと思います。ただ、あわせまして外壁等も改修、それから、照明、これも大きな問題ですので、長寿命化計画が出されたときの年度から何年か経ってますよね。だから途中でどの程度のものが済んでいて、これからどうなっていくかっていうふうな見通しを改めて持たれるような取組が予定されているのですか。

●事務局（教育部長）

長寿命化計画の中で、当然進捗を図りながら進めていく、なかなか計画通りにいかないという部分がございます。まあ現状悪いところは優先してやらなくてはならないということとかあります。ということでですね、今、委員おっしゃいましたように、何年かのスパンでですね、どれ位計画は進捗しているか、ということもですね、しっかり検討しながらですね、子ども達の安全を守っていきたいという風に思っています。

●松田委員

はい、ありがとうございます。大きな予算を伴うものと、子ども達にとって日常的なところですので、ぜひ現在と次の希望を見ながら進めていくことが必要なという風に思っておりますので、ぜひまたどこかで見える形にしていただけたらと思います。

●市長

ありがとうございました。いいですか、もう。

●松田委員

はい、ほかの方もおありになるので。

●市長

片山委員お願いします。

●片山委員

私も、今、遊具のことを聞こうかなと思ったので。遊具は、色々調査した結果、鉄棒が主に修繕改修が必要だという風にお聞きしたんですけど、鹿野小学校とかをちょっと見たら、ブランコが使えなくなっているところの箇所もあつたりします。各学校によって色々な種類の遊具があるだろうと思うんですけど、今、松田委員さんも言われたように、危険性から見ればすぐ、使用できないというところの対策はされてると思うのです。けれども、子ども達にとって、これは必要な遊具っていう風になれば、その辺の改善が早急にできる手立てがあるような気がしたところです。

●事務局（教育政策課長）

小・中学校、それぞれ色々な遊具が敷地の中にあるのですが、これもですね、地域からの寄付であつたりとかですね、PTAが寄付されたりとかいろんな経緯の中で遊具が設置されている状況でございます。教育委員会の中でですね、何年か前にですね、遊具につきましてはそれぞれの発達段階に応じた、必要な遊具というのはなんだろうかということですね、一応指針、方針を出しております。整備方針ですね。その中で、いろんな複合遊具、小学校に多いですけども、そういったもので危険な状況であつた場合にはですね、基本的に撤去する方向で進めていきたいという風には考えております。学校と相談しながらですけど。それと発達段階についてはですね、学習指導要領に基づいた、それぞれ必要な遊具は何であろうかということをお学校の指導担当の方と協議しまして、指針を出しておりますので、その遊具がもしもレッドカードのCであつたりやDであつたりとか、鉄棒がそういう状況が多いのですが、そういったものについては優先的に改修をしていこうと思って、撤去して、新たに必要な数を設ける。そういった思いを持っております。ある程度整理しながらですね、必要なものは何だろうかということをお考えながら、整備をしていきたいと思っております。もちろん安全が第一ですので、そういった時は、劣化があまりにもひどいものについては使用禁止という措置も取りますけど、そういった計画的な遊具についても計画的に進めていきたいなと思っております。

●片山委員

確かに必要になっていうことになった時、体育の授業で鉄棒の逆上がりの何か補助的な遊具が、遊具じゃないか、ありますよね。そういったものがもし使えないのであれば、早急に改修等していただきたいと思います。

●事務局（教育部長）

必要なものから、整備していききたいと思います。

●片山委員

ありがとうございます。はい。よろしく申し上げます。

●市長

遊具という言い方でよろしいですか。

はい、岡寺委員。

●岡寺委員

はい。まず長寿命化計画ということで、私も一番、多分この委員の中でまだ子ども達が近くに関わる機会が多い立場だと思うんで、話はよく聞くんです。例えばトイレがきれいになったとか、壁がきれいになったとか、すごい皆さん喜んでます。長寿命化計画が何年も経ったので一斉に動き出してる感じがするんですけど、やはり保護者からいい話を聞けば聞くほど、わたし達、親父の会とか、PTAとかで地域の人と一緒になったりするとですね、コミスクもそうなんですけど、一体感みたいなちょっと欲しいなっていうのが感想として少しあるわけです。なので、こういうプロセスを経て、トイレがきれいになったねとか、壁がよくなってみんなが不便だったものが解消されたねなんていうのがあればいいなと思うんですけど、難しいでしょうかねと、ちょっと。とても好評なんですけどね、というのが感想も含めて少しご紹介させていただきました。

それと、ちょっと順を追って言わせていただくとコミュニティ・スクールというこの第2の部分で紹介していただきましたけど、実情をちょっと知りたいという部分が正直あって、片山委員も色々申し上げたいこともあると思うんですけど、私のところもそうですけれど、やはり定番化してしまったメンバーっていう様な課題が実情としてあって、そういったものをどういう風に入れ替えていくというか、ですから、世代交代も含めて、考えてらっしゃるかなっていうのをちょっと伺いたいなと思います。まずちょっとそこで1回質問していいですか。

●市長

はい、ではコミスクの件で。

●岡寺委員

ごめんなさい。難しい質問でしたか。

●事務局（教育部長）

答えられる範囲で。

●事務局（学校教育課長）

すみません、学校教育課の方で答えさせていただいてもいいですか。今の質問、コミスクの活動が固定化ですか、メンバーが固定化ですか。

●岡寺委員

メンバーで。メンバーだと思っています。やはり世代交代も含めて。

●事務局（学校教育課長）

本市が全小中学校をコミュニティ・スクールに指定してから10年が経過しました。この間ですね、地域の皆様には、当初は学校を助けていただくというような目的から、今は学校とともに、地域作りをしよう、学校作りをしよう、という形でご協力をいただいております。そのメンバーは、もう学校によっては10年間変わらぬメンバーのところもあれば、新たに世代交代されている学校もございます。一番難しいなと私も現場にいるときに感じていたのか、今やってくださってる方達がどんどん高齢化していく中で、次の世代が育っていなかったりとか、上手に引き継げていなかったりとか。その理由の中には、その次の世代がまだまだ現役世代で、最近ではですね、教員の方もずいぶんと高齢化しております、60で定年した後でもですね、再任用とか、臨時採用とかっていうことで、65になっても70になってもまだ勤めなくちゃいけないような状況もあるような現状でございます。そうした中、なかなかお忙しい状況があつてですね、バトンタッチがうまくできていないというような課題が浮き彫りになってきています。

ある学校ではそういう風にうまくできてるなと思っているのは、元々そのPTA活動で中心になってくださっていた方々に、卒業したらそこで、もう縁が切れるっていうわけではなく、卒業後もですね、そうした学校運営協議会とか、学校との協力関係というのも引続き継続をしていただく中で、つまりは、保護者、OBの方々に、今度はその地域の支援者の中心となつていただく、というようなステップを踏んでおられる学校もあります。私もそういうようなところを目指して現場でやってきていたんですけど、そうした動きを今後作っていく中で、つまりはその為にはこのコミュニティー・スクールの活動に、いかに保護者に関わっていただくか、地域の代表者と学校だけではなくて、そこにPTA、保護者にも関わっていただいて、学校等の教員と保護者と地域住民と一体となつてやっていくことによって、次の世代の地域の協力をしてくださる方達と連携を深めていくということが重要なのかなというふうに考えておるところです。

●岡寺委員

ありがとうございます。ぜひその方向で、プッシュしてもらえたらいいなと思つてます。多分その学校学校、地域地域ですね、応援団みたいなOBがたくさん出来上がってくるんだろうと。私コミスクに関わつててそういう応援団が増えてくるんですよ。それが卒業で終わりっていうから。解任で、終わったら終わりではなくて、そういうファンのように繋^{つな}げていただけたらなと思つてます。ぜひよろしくお願ひします。もう1個いいですか。

●市長

はいどうぞ。

●岡寺委員

すいません。人権セミナーのところありましたけど、私も、これもコミスクだったり地域のことで関わるとセミナーのご案内とか来るんです。とても興味深いことがいっぱいあるんですけど、なかなかその時間がですね。前も会で話したりしたんですけど、なかなか行ける時間じゃなかったりすると、日中であつたりとかですね。もちろん、この中にインターネットでといった様な形で、今これからの利用方法というか、セミナーのやり方っていうのを提案されて、とても私も共感して、ありがたいなと思っておりますけど。しかもですね、行ったら意外に、意外にと言ったら失礼ですが、聞くとすごく為になる話、いっぱいあるんですよ。すいませんちょっと口が、ごめんなさい。なので、それを後から聞きたいっていう方もいらっしゃるっていう説明をしたかったのです。今日の話良かったよとか。もしそのようなアーカイブのような形になったら、インターネットの社会の連続性というか、さらに充実したサービスになるんじゃないかなというふうに思ってます。おそらくこういうことっていうのは多分これからもこの人権セミナーだけではなくてですね、講演会とかもありますけど、本当に聞きに行った本人だけはとても恩恵を受けるんですけど、いい話だったんですけど、聞かせたいっていうのも聞かせられなかったりですね、権利とか色々ありますけど、上手く行けばそういったこともできたかなと思うんですけど、可能性はあるんでしょうか、っていう質問です。

●市長

はい。どうぞ。

●事務局（人権教育課長）

はい。ありがとうございます。ぜひ今のご意見を参考にさせていただいて、アーカイブなどもホームページに掲載するなど、前向きに検討してまいります。

●事務局（教育部長）

先ほどちょっと説明しましたけども、今3つ位動画を作ってホームページ等に紹介したこともあるんですけど、ああいった形で、今の委員のご提案に対しても可能なのかなという風に思っています。

●岡寺委員

ありがとうございます。

●市長

これは全市民が対象なんですか。

●事務局（人権教育課長）

はい。色々な地域で行っておりますけど、広報等で広く募集して、全市民が対象です。

●岡寺委員

ありがとうございます。

●松田委員

セミナーのことで聞いていいですか。

●市長

はい。

●松田委員

すいませんちょっとお伺いだけ。今回 16 講座ですかね、開かれるのですが、県の指針等で分野別の施策として 16 項目上がっていますよね。その内このテーマっていうのはそれぞれの団体さんが設定されるんですか。それともある程度の見通しを持って広げていくのか。なぜそれをお伺いするかというと、その 16 の施策の中にプライバシーの事とか、そういう観点のものとか、感染症の問題とか、ちょっと今聞きたいなというようなことも入ったので、このテーマはどうやって決めておられたか教えていただけますか。

●事務局（人権教育課長）

そのテーマは、もう経年的にこのセミナーを各地で開催しておりますので、各地でバランスよく様々なテーマが開催できるように 16 の中から、また、今回のテーマのように感染症などの問題が社会的になってきますとそういうのをプラスしたり、インターネットを増やしたり、そういうふうに課の方でテーマは決めて必要な関係者の方をお願いしております。

●松田委員

はい。わかりました。ありがとうございます。どれも大切なテーマなのだけれど、その時代性もちょっとあるかなと思ってお伺いしました。ありがとうございます。

●市長

ありがとうございました。

では吉本委員、お願いします。

●吉本委員

私は 7 ページの、スクールソーシャルワーカーの配置事業ということについてお尋ねしたいんですけども。現在県の補助事業ということで 6 名の方が選任されていて、6 名では非常に厳しいということで、先程お話をちょっと伺ったと思うんですけども。今回プラスするのが 1 名という。6 名が 7 名になって、どこまで対応ができるかなってところが不安なのとですね、あと、そもそも県の補助事業がいつまで続くのかとかですね。もしなくなった場合、どうなるのかと。あとスクールソーシャルワーカーの方がだいたいその理想として、だいたい何人の生徒指導について何分の何っていうんですかね。1 人当たり何人いた方がいいとかですね。そのあたりを教えていただけたらという風に思います。

●市長

お願いします。

●事務局（学校教育課長）

はい。県の補助事業に関しましては、10年位になりますので、事業開始されて。で、県というより国。県の補助事業なんですけど、国もですね、このスクールソーシャルワーカーの必要性をどんどんどんどん高く感じておられるというか、増しておられることから、国県の補助事業の助成金自体はですね、年々増えてきているのは実際でございます。ただ、本年度から補助率の割合がですね、少し変わった為に、市が持つ分が少し増えているのは確かなんですけれど。ただ8ページにございます、活動の上限時間というのが表中に書かれておりますが、この468時間という時間については、かつてよりもずいぶん増えてきた時間でございます。しかしながら、必要性が高まっているという背景には、支援の必要な児童生徒が増えている家庭が増えているということがございますので、到底この時間じゃ賄いきれない。6人で468時間というのを担当していただいているのですが、このたび、市が単独で配置する、スクールソーシャルワーカーさんについては、お1人が288時間持っていただくということで、県の補助をいただいで活動されるスクールソーシャルワーカーさんよりも、かなり多くの時間を担当していただけるようになっております。これについてはお引き受けいただくスクールソーシャルワーカーさんが、この時間可能ですよと言ってくださった部分もありますので、この時間持っていただくのですが、これで果たして十分なのかどうかというのは、令和4年度中にしっかりと検証していき、もしもこれでもまだまだ足りないということであれば、また今後、施策等を考えていこうと思っておるところです。

それから、もう一点のご質問が、何人位を担当しているかということでございますが、現在のところいくとですね、1人のスクールソーシャルワーカーが6名から7名位の対応です。これから7ページに、現在の6名の対応で限界に近くと書いてありますけれど、現在の対応数がですね、そうですね3、40名程度だったと思いますので、6名位か人によっては7名かというところだと思っています。

●吉本委員

3、40名とおっしゃるのは、対応が必要であるという。

●事務局（学校教育課長）

対応できている児童生徒数です。まだ他に控えている要請があるんですけども、時間が足りない為に待っていただいている児童生徒もおりますので、まだまだもっと必要なところではあります。

●吉本委員

以前、フードバンクをやるときにですね、宇部の事例だったんですけど、スクールソーシャルワーカーの方が食べ物を持っていくことによって、その家庭が初めて玄関を開けることができるというお話を伺ったことがあった

んで、分からないのですが、ヤングケアラーといわれる方17名に1人だったりとか言われている中で、なんとなく、まだまだ少ないような、もうちょっとスクールソーシャルワーカーの方がたくさん地域に散らばっているとですね、ちょっと対応が早くできるのではないかと思いますので、すいません、ありがとうございました。

●市長

はい、どうぞ。

●松田委員

今のスクールソーシャルワーカーですが、実際の学校で子ども達対応していくと、やはり子ども達だけの問題ではなく周りの保護者の方とか、いろいろな状況によって、他の機関に繋いでいただくことが大変重要になってくるケースが多々ありました。やはり学校で子ども一人一人に対応していくだけの問題ではなく、周りの環境をやっぱり整えていくっていうときに、警察や保護者、福祉団体、そういうところとの連携を取るっていうことが、なかなか学校では難しく、今言われたフードバンクの方がそうなんです、そういう意味では、本当に深刻になって、やっとお願いして、もう動き取れませんね、これは時間かかりますよっていうケースが多々ありました。それもちょっと早くどこかで繋いであげられたら。もう少し子どもの育ちにもいい影響になるのではないかなっていう、もちろん周りの方にも。そういう意味ではスクールソーシャルワーカーを市で1人増員でも嬉しいニュースだったんです。でも、先ほど申しましたように、やはり対応が早ければ早いほど、時間的にも余裕もできるし、子どもの育ちの中の関わる時間もやっぱり違ってくると思うので、ぜひこれは将来的にも色々計画的にはいかないかもしれないが、今言われた視点はとっても重要なかなという風に思っております。

●市長

ありがとうございます。とても重要なことであります。

はいどうぞ、ご意見を、せっかくの機会です。

●岡寺委員

いいですか。たまたま、ちょうど19日の日には今宿地区ではマルシェっていうリサイクル、いわゆるフリーバザーみたいなものを行ったんですけど。その主の目的は、子ども食堂ができないのでお弁当配ろうと。その時にただ弁当を配るんじゃなくて、少し何かリサイクルできるもの何でもいい、使っていない鉛筆でも何でもいいから持ってきてくれたら交換します、ということで、少し子ども達にも関わりやすい形でやったりしたんですけど。そのまだ始めたばかりで大きな動きではないんですけど、地域で見ると、必ずプライバシーの問題もあって、先生に聞いたり、学校側に聞いてもお困りのご家庭のこととかなかなか知る機会にないというか、知ることができなかつたりするので。全体的にやわらかく包んでいう地域全体を包むという意味でいうと、コミュニティ・スクールもしくは今、夢プランも兼用でやって

るんですけど、そういった地域の流れの中に、こういうスクールソーシャルワーカーが、もう一緒に入ってもらったらいいかもしれません。なんかそんな一部でそれをやられてるといよりは、もう少し、一緒になってやられるということ、^{つな}繋げていただけたらいいなって気がしました。たまたまやった事業と似ていたのですいません。

●市長

はい。ありがとうございます。片山委員さん、いいですか。

●片山委員

重点政策の方の予算の関係のところの内容のところ、学校ボランティアのことなんですけども、その内容について書いてあるところで、私いいなと思って。関心をより考えていただきたいなと思っていたのが、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を作り「生きる力」を養うっていう部分なんですけども、これに下のところに教職を目指す周南公立大学生の希望者対象なんですけども。学校支援ボランティア、まあ学力についてとか「豊かな心」の上のところの項目なんですけど、それを小・中学校に受け入れる体制を構築して書いてある。これは非常に今から大事な、必要となってくる部分がいろんな方面で学校を支援していくっていう。地域もそうなんですけど、こういうふうに教職を目指す若者達がですね、そういう学校にボランティアというか支援に入っているっていうのを、将来的にも、やっぱり自分にとっても、その学校地域にとってもこれをプラスになるんじゃないかなっていう風を感じたのですね、その辺の構築の部分はどういうふうにある程度想定というか考えておられるのかなという。非常にいい事だと思うので、もしそういう前提というか、考えがあれば、教えていただきたいという風に思っているんですけど。

●市長

はい、どうぞ。

●事務局（学校教育課長）

このことにつきましては、本年度、徳山大学と何度も協議を重ねてまいりました。本市において、例えば、今、臨時的任用教員が非常に少なくなっていて、なかなか、例えば教員が産休とか、病休とか取った時に代替職員が県内どこ探しても誰もいないという状況が出てきます。これは全国的にもそういう状況で、他県においてはスタート段階から欠員状態であるという報道も先日なされたところでした。本市においても年度途中のそういう欠員状態が起こるような状況のなか、学校が1人少ない部分も総力で補い合っているんですけど、その分かなり教員の方に負担が掛かっているのが現状です。

そうした中でですね、大学生の中で教職を目指す学生さん達に、何か授業は替われないけれど、まだ免許を取得しておりませんので。その授業は替わってできるわけではないけれど、担任をサポートしたりとか授業の中に入って、個別の子ども達の支援をしてくださったりとかっていうような、ボランティ

アをしてもらえないだろうかという、こちらの希望とですね、大学側が実はずっと徳山大学がですね、これまで中学校高校の体育の免許、社会の免許、それから高等学校の商業の免許等を、大学在学期間中に取得して、学生さん達が卒業するんですけど、約40人位が教員免許取得を目指すんですけど、実際に教職の現場に入ってくる学生さんって非常に少ないという、状況、課題があって、そこを何とか、もう少し折角教職免許取るんだから、そちらの方面に進めないだろうかというところの大学側のニーズが、実は今回合致してですね、今年度は大学近辺において近辺の学校において、小学校とか中学校に実際にボランティアとして入って助けてくださいというのをお願いし、学生さん達に入っていたいたるところです。

学校からもかなり好評を受けましてですね、大学生も実は今年度、4年生で卒業した大学生さん達の中で、免許自体はですね、高等学校中学校高等学校の体育の免許で高等学校の体育の試験を受けたんですけど、残念ながら駄目だったんですね。その学生さんがですね、この体験を通して、今年度やった体験を通して、小学校現場でやっていきたいということから、令和4年度は小学校の臨採に出させていただいて、臨採期間中に、またその免許取得に必要な勉強して行って、講習を取って行って、小学校免許を何とか取得して、小学校で今度は採用試験を受けたい、小学校で働きたいというようなご希望を出された方が2人おられまして、そういうような動きも出てきているところなんです。それを来年度は全市的に^{すべ}全ての学校において、この支援ボランティアができるように、現在2年生と3年生の、今回4月から周南公立大学になります、周南公立大学2年生と3年生の学生さん40名の方々に、各学校というか、市内の希望する学校に入らせていただけるように、近辺であれば旅費はかからないんですけど、遠隔地になったらどうしても旅費が発生しますので、その旅費を学校教育課の方で教育委員会の方で何とか補助をするという形で、学校にとっても支援がもらえ、学生さんにとっても学校での現場実習を踏んで、よりその教職を目指す気持ちを高めていくという、お互いがWIN-WINになるような状況を作っていこうということから、この事業をもう来年度は4月から募集をかけていくという運びになっておるところです。

●片山委員

分かりました。ぜひ協力を。

●市長

せっかく公立大学推進室の皆さん来ていらっしゃいます。聞かれますか。

●岡寺委員

ぜひ公立大学も、ものすごい期待大なので、コミュニティとしてはもうぜひ混じって欲しいですね。

●市長

どうぞ。

●事務局（企画部長）

公立大学推進室の方は、来年から公立大学連携室という風に変更しました。より連携の方を、今までは公立大学を進めるということで、動いていたんですけど、やはり公立大学になったということで、今度は連携していくという形になって、いろんな大学の資源ですね、「知の力」というのを使って地域に入っていくってですね、やはりそんな中でも私も大切だと思っているのは、学校との連携、高・中・小学校と大学が連携していくということ、非常に力を入れているといったところでございます。そういったところを今どんどん進めておりますので、その力を使ってこれからも。私は常々教育というのは非常に大切だということ。まあ市長側の方の思考としても持っていますので、そういったところ進めてまいりたいと思っておりますので、またそういったことがあればご協力よろしくお願ひしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

●市長

ありがとうございました。よろしゅうございますか。はい。ありがとうございます。皆さんの貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。本日いただきました様々な視点からのご意見を十分に斟酌^{しんしゃく}させていただき、今後より一層実効性のある事業進展に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

2	教育委員会におけるICTの活用について
---	---------------------

●市長

それでは、次の協議事項に移ります。

協議のカッコ2番「教育委員会におけるICTの活用について」でございます。

事務局から、説明をお願いします。

●事務局（教育部長）

それでは協議2という資料になりますけど、そちらの方でご説明したいと思ひます。教育委員会の方の資料ですが、生涯学習課それと学校教育課、中央図書館の資料がそれぞれ付いておりますが、本日はその中から、学校教育課にご説明させていただき、その中から協議を進めてまいりたいと思ひますので、まずは説明をお願いします。

●事務局（学校教育課長）

私から学校教育のICT活用の推進に関しまして、現状と今後の予定等について説明をさせていただきます。

1枚めくっていただいて、「学校教育のICT活用推進」という資料をご覧ください。まず、国が推進していますGIGAスクール構想の実現に関して、本市の状況を説明します。国は、1人1台端末と高速大容量の通信ネット一

ワークを一体的に整備し、多様な子ども達を誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現することを目指し、当初は令和元年度からの5か年計画で導入する予定でした。

しかし、令和2年3月に、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国一斉の臨時休業が実施され、その後も、一向に終息の兆しが見えない状況が続く中、学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により、^{すべて}の子ども達の学びを保障できる環境を早急を実現することが求められ、5か年計画を前倒しして、令和2年度中に^{すべて}の環境を整えることとなりました。本市においても、令和2年度に学校教育課内にICT教育推進室を設置し、小中学校の専門部会と連携を図りながら、端末やアプリケーション等の選定、家庭の通信環境の把握、機器の導入、環境整備に伴う工事等、急ピッチで作業を進め、なんとか令和2年度末までに環境を整えることができました。その整備内容については、資料1ページ目から2ページ目にかけてお示ししている通りです。

また、令和3年度からの本格運用に備え、令和2年度中に、タブレット端末に導入したアプリケーションの活用方法に関する研修を、オンラインで開催するとともに、各学校においても校内研修を実施し、教員が活用できるよう準備を進めてもらいました。

3ページ目をお願いします。そうした中、令和3年1月の中教審答申により、今後の国の教育施策として、「令和の日本型学校教育」の構築を目指していくことが発表されました。この「令和の日本型学校教育」のキーワードは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」であり、これらをICTの活用により一体的に充実を図ることで、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」を実現するという構想です。ここに、GIGAスクール構想が取り入れられており、これまでの教育実践とICTとを最適に組み合わせることで、「令和の日本型学校教育」の構築を図ることが示されています。

4ページ目をお願いします。それらのことを踏まえ、本市では、令和3年度から教育現場でのICTの活用を本格的に進め、ICT教育の推進を図ってまいりました。

第1段階として、令和3年度の1学期には、授業の中で、まずは、「教員や児童生徒が使ってみることを合言葉に、日常的な活用を目指しました。さらに、その活用の仕方に関しても、市内全学校で、個別最適な学びと協働的な学びの場面において有効利用することに推進のベクトルを揃え、各学校で実践事例の作成をお願いしました。わずか数カ月で各学校の活用が一気に進んだのは、令和3年度からICT教育推進室に配置した、ICT教育アドバイザーの活躍によるところが大きいです。ICT教育アドバイザーは、令和3年度、月100件以上の相談、支援、研修等の対応をしており、毎日複数の学校を駆け巡って、教員に直接的な指導、支援をしています。

また、第1段階においては、家庭での活用促進を図る為、まずはゴールデンウィークまでに、^{すべて}全ての児童生徒がタブレット端末を家庭に持ち帰り、通信の確認を行うとともに、Wi-Fi環境の未整備の家庭を支援する為に、学校教育課でWi-Fiルータの貸付を行い、さらには、就学援助認定家庭に、オンライン通信費の補助を行って来ました。

2学期以降は、推進の第2段階として、各学校からタブレット端末を活用した授業の実践例を収集し、教育委員会でアイデア集としてまとめ、ホームページにアップロードし、教員が今後の授業改善に生かすことができるようにしました。また、学校での日常的な活用に合わせて、家庭学習での活用の充実を図る為に、市内^{すべて}全ての学校で、週1回以上、タブレット端末を家庭に持ち帰るようにし、当初から懸念されている活用に関する学校間格差、学級間格差を生じないように努めています。

さらに、令和3年度は、特に3学期に入ってから、10代及び10歳未満の世代に、新型コロナウイルス感染症が広がり、これまでよりも多くの学校で臨時休業等の対応をとることとなりましたが、児童生徒の学びを止めないようにする為に、タブレット端末を家庭に持ち帰らせ、学校からオンライン授業を配信したり、ICTを通して健康観察や学習支援等を行ったりしています。臨時休業以外でも、個別に自宅待機となった児童生徒も多くいます。その児童生徒に対しても、学校の授業を配信して家庭でも授業に参加できるハイブリッド授業配信を行っています。こうしたICTの活用は、コロナ対応だけでなく、不登校の児童生徒に対する学習支援にも有効で、希望する児童生徒の家庭や教育支援センターにも授業配信している学校が増えてきています。5ページ目をお願いいたします。これまで説明いたしました令和3年度の実践について、ここで、その成果と課題をまとめてみましたので、ご報告します。

まず、成果ですが、ICT教育アドバイザーの支援により、授業でのタブレット端末の活用が進みました。各学校での主体的な研修により、教員のICT活用技術が高まりました。日常的に児童生徒にタブレット端末を活用させたことにより、児童生徒のICT活用技術や情報活用能力が高まりました。本市の積極的な活用状況について、ベネッセ社の機関誌で見開き6ページの特集が組まれたり、学校訪問した県教育委員会指導主事等により全県下に紹介されたりしたことにより、他市町の学校からの視察が増えました。このことは、本市が、先進的な取組を、他市町に提案することができたことと捉えています。学習総合支援システム、ミライシードの活用率の高い学校は、学力調査においても国や県の平均点を上回る結果を出しました。このように、確実に成果が表れています。

一方、課題についてですが、ICT教育アドバイザー1人の支援には、限界が見えています。学校訪問による支援を行うICT教育アドバイザーへの相談は、ソフトウェアの活用だけでなく、ハードウェアの設定等に関することも

多く、ICTに関して、より専門的な知識や技術が必要となっています。学校現場では、令和3年度の実践を踏まえ、令和4年度以降、さらにICTを活用した授業改善が図られることが予想されます。それに伴い、教員のニーズがさらに広がり、様々な活用方法について支援の要望が出てくる可能性があります。その課題解決に向けた取組として、次のことを計画しています。

まず、令和4年度の計画として、ICT教育アドバイザーの配置を拡充する予定です。ICT教育アドバイザーを2名にする予定ですが、教育現場とICT活用の両方に精通した人材は、見つけることが困難であるという課題もあります。今後、公募や民間も視野に入れた専門的な人材の確保についても、検討が必要になってくるのではないかと考えています。

次に、さらに先の将来展望として、高等教育機関との連携を考えています。令和6年度に周南公立大学に、「情報科学部」が新設される予定です。徳山工業高等専門学校には、「情報電子工学科」があります。これら高等教育機関と教育委員会及び小中学校との連携により、ICT教育の一層の充実を図りたいと考えています。この連携は、高等教育機関にとっても、学校現場にとっても、両方にメリットがあるものとなるよう、構想中です。例えば、教育現場のICT活用の可能性を研究する為の場を教育委員会が高等教育機関に対して提供することにより、高等教育機関において研究が進み、その研究の成果等を市内小中学校に還元してもらったり、学生等を学校現場に派遣して支援活動を行ってもらったりすることで、学校のICT教育が一層進んでいくことが期待されます。

今後、周南公立大学及び徳山工業高等専門学校との連携について、積極的に進めていきたいと考えています。以上で、学校教育課の説明を終わります。

●市長

はい。ありがとうございます。厚東教育長の力をお借りしたいと思います。それでは、教育長から何か補足はありませんでしょうか。

●教育長

今、学校教育から色々説明があった通りで、本市の学校におけますICTの活用も着実に今進めるという話もあったという風に思います。私も色々な話を聞く中でですね、個人的な話になるかもしれませんが、補足説明というよりはですね、ちょっと大事な要素っていうのが三つあるのかなというを思ってまして、一点目は、何とか子ども達に学びに向かう力っていうものをつけてやらなきゃいけないっていうのが一つ、一点目でございます。ICTを学校という場で使う、しかも教育のツールとして使うわけなので、学力の向上とかがっていうことから、避けては通れないものかなと思っています。ただこの学力っていうのは、ただ単にテストの点数が上がるっていうような学力ではなくて、このICTを活用することによって、さっきちょっと説明がありましたけれども、個別最適な学びとか、協働的な学びということを実現させることによって、子ども達が持っている興味関心を高めたり、

あるいはコミュニケーション能力を高めたりっていう風にして、要は先々までずっと学習というものに向かっていく力っていうものを、幅広い学力と捉えてですね、そういったものをつけさせていく。子ども達が自分自身で頑張る。あるいは、他の仲間とか友達とかと切磋琢磨しながら学び継続する。そういう力をこのICTの活用を通して進めていけたらいいじゃないかなというふうに思っています。

2点目はですね、「生き抜く力」っていうのが教育委員会でも言いますけれども、それをつけさせるということが大事ななと思ってます。周南市はスマートシティ推進本部っていうものを立ち上げて、オンライン申請を始めとして様々なものが今進められているわけなんですけれども、こういった社会で子ども達が今から先、生きていく為には、やっぱりこのICTにアレルギー反応を示す様な子ではいけないので、小学生の段階から、こういったことに触れていく。さっき、ちょっとここに来る前に一歳半の子どもがスマホをこーやっていじくるっていう話がありましたけれども、そういったこと、そういったようなことに慣れ親しんでいく子ども達を育てることで、先々のスマートシティの中でも生き抜いていける子ども達になっていくのかなという風にも思っています。

3点目はですね、これ市長さんも言われてますが「品格のある市」に育てていくっていう観点でいけばですね、今議会でも時々このICTのことは話題にさせていただいてますけども、まだ視力の低下であったりとか、これがいじめに繋がるんじゃないかとかっていう、いろんな弊害とか心配事がたくさんあるんですけども、これは子ども達が今からの社会に生きていく為にはマストアイテムで、もうこれを使わないっていうような世の中はあり得ないわけですから、いろんなトライアンドエラーを繰り返しながら子ども達がそういうモラルとか、そういったものをちゃんと身に付けて行って、そして大人になって行って、また次の世代にそれを伝えていくっていうようなことにやっぱり繋げていかないと、意味がないんだろうなというふうに思ってますので、そういった学びに向かう力とか「生き抜く力」とか品格のある市民への育成とか、そういったことも考えながら、こういったことには取り組んでいかなきゃいけないなっていう風に思っているところです。

以上です。

●市長

ありがとうございます。それでは、一応2時半までを予定しておると思いますので。

●事務局（教育部長）

25分位までですみません。25分くらいを目途に。

●市長

25分、はい、大変限られた時間ではございますけれども、皆様方が日頃考えられていらっしゃることを、率直なご意見とかご感想とかありましたら

お聞かせいただきたいと思います。今の教育長さんのお話もしっかり中に取り込んでいただいている話でございます。何かありましたら自由発言で。どうぞ。

●岡寺委員

先程、小さい子どもでも使えるっていう意味でいうと、みんなが、普通に使えるように進めているのは分かるのわかるんですけど、やはりその時に話が出たんですけど、便利でみんなすごいですねって言うんですよ。驚きと同時に「大丈夫？」と思うんですよ。やっぱり便利ってというのは、心配が伴っている感じがして、教育の現場では特に心配ってというのが強くなります。親としても思います。そこで先程の教育長が言われた、品格のあるモラルの構築とか。そういったことで言うと、先生はさらに難しいだろうなど。先生方も初めてのことがたくさんあると思うんですよ。その辺を例えばネットで調べていけば終わりますけど、そうじゃないっていう世界も、当然あって。例えば辞書を引く、その辞書を引く一段階で得る途中の段階が、実はすごく大事だったりする。ある作家さんが講演会で言ってましたけど、桃太郎という物語が、今なら出来上がらないって話をしていました。要するに、芝を刈りに行くとか、洗濯に行くっていうそのプロセスが家の中で完結してしまう。途中での出来事^{すべて}無くなって川で桃太郎拾われずに海に流れて死んでしまうみたいな、それはちょっと冗談交じりに言ってましたけども、そういった途中のプロセスを持った先生方は、敢えて作っていかなくてはならないんだなって感じるんですけど。どうですかって感想言っちゃいました。すみません。ぜひその辺聞いていただけたらなと思っています。

●市長

そうですね。ネットのことは皆さんも思っているんじゃないかな。もし何かありましたら、今の不安とかモラルとか。調べることとかそういったことでもいいです。

●松田委員

確かにモラルの部分については、日ごろの生活の中で色々なことが起こってきて、人間関係づくりとか。そういう中にICTが入ってきて、その情報世界の中でどういうモラルを育てていくかっていうのも新たな視点で必要になってくるのもありますし、今のいろんな情報の中から心配されるのはとてもよく分かります。

ちょっと話を逸らせて申し訳ないんですが。私はこの学校現場にこういうものが入ってきて、やはり一人一人の学びがその子に合わせて組み立てられていく。そういう時代が来て、すごくいいなと思うところもあるんですよ。なぜかという、やっぱりある程度のレベルで進めていって、どうしてもちょっと難しい場合に、自分の興味関心に沿って段階に応じて力をつけていくようなアイテムを使いながら、個別学習が進められていくっていう視点もあるし、思いを持っていながら、内気な子どもも意見を表明する機会があっ

て光を当ててもらえる、そういうことが瞬時にできるようなシステムっていうのは、とてもやっぱり。今の時代、昔から教師として悩んでいたところの解決策が実はここでたくさん与えられている。そういう視点はあると思うんです。

実際には去年の今頃はまだ整備するので大変だったんだけど、今こんなに活用が進んで意識が変えられるんだなっていう思いに、ちょっとやっぱり現場とか教育委員会とか行政からすごさを感じてます。ぜひ高等機関の方もおられますけど、小学校中学校時代は、基礎的基本的な力をやっぱり身につけさせて、次へ送っていくっていうところも大事な役目なので、そこもやっぱり基礎基本の力をその子に合わせてしっかり身につけさせて、途中で僕はもういいって言わないで、次に向かっていくっていうのも育てていかなきゃいけないと思うので、そういう意味で、このICTを学校教育の中で活用するっていうのは大事だと思っています。何度もチャレンジしてきたから、なかなか大多数の子どもさんに合わせた教育っていうのは正直今まであったわけです。それが今少し要素がたくさん出されて、しかもさっき教育長が言われました、自分の意思で選べる、自分の興味関心で選べるっていうのはすごいことだと思って、それをちゃんと指導までしてくれる、そういうところにやっぱり私は良さを感じていますので。今こういうふうに進めていただいていることはとっても嬉しく思うし、将来に渡っての力をしっかり備えて送り出していく、学校の役目もまたちょっと一層厳しくなるかなという風には思っています。

それを学びに生かすっていうことでずいぶん前からちょっと思ってたことが、私達は日ごろ生活の中で自分のスマホを使って調べたりしますが、学校という仕組みの中で、皆が一斉にインターネット接続したらどうなるんだろうとか、それから繋がりが遅くなったら、もういいやって思ってしまうんじゃないとか、そういうところを心配して先般からちょっとお尋ねしたら、その辺も十分対応をされてきているということで、何か子ども達がいつでも机から出して好きなときに自分で調べながら、それを生かしていくという風に私達大人の社会が子どもの学びの中でも、体験できるような場面ができるかなっていう風に大変将来とかこれからの活用に、期待を持っているんですが、先ほど成果でもちょっと出てましたね、学力の。まあ学力だけではないんですが、一番成果として身につけてるよっていうのがあるというのはとてもいいし、またこれからもずっと継続的に見ていただいていたきたいなという思いがあります。すいませんちょっと個人の思いで言ってしまいました。

●市長

いや、やはり経験から出た言葉でございますので、またありがとうございました。

いいですか。

●吉本委員

はい。私はもう、今後先ほどもマストアイテムという言葉があったと思うのですが、今から更にもっともっと進化していく色々なものともものがITで繋がって、さらに進化していくという中で、正しい使い方、機器としての使い方とソフト面というかですね、人としての使い方ということをしっかり両立で教育していく必要があるのではないかなという風に思っていて、それは子どもだけではなくて、私達大人も思っていて、実はその迷惑メールスパムメールがさんざん来てたりとかするんですけども、あの辺りを正しい知識でないとですね、すっかりデータを抜かれたりとかいうこともあるわけで。本当にメールが迷惑メールの様な形でたくさん来てますけれども、ああいったことを正しく知識として知ることによって防ぐことがたくさんあるのではないかなという風に思っています。逆に私は社内でも若いスタッフにそのメールは開けてはいけませんと注意される位ですから、気を付けてくださいという風に散々言われる位ですので、なのでやはり正しい知識を全員が持つということではないかなという風に思います。便利な道具だからこそ危険だから使わないのではなくて、使い方をしっかり理解をして学んでいくということも両立で必要ではないかなと思いました。若い人達が更にどんどんどんどん進化していくといいなという風に思います。

●市長

はい。ありがとうございました。片山委員。

●片山委員

はい。ICTの活用GIGAスクール構想案ですけども、これは国が全国的に一齐にさあスタートってやって、本市については、早く色々なハード面が整ったということで、すごく良かったと思っています。今から徐々にそのICT化が学力とかそういう風に使っていくのに、アドバイザーが1名増えたりとかですね、そういう風な需要というか必要性がどんどん出てくると思います。更にこれが続いていくでしょうから、それぞれの対応というか市のレベルで対応も変わってくる、差が出てくると思うので、ぜひこれは力を抜くことなく、継続してやってほしいなという風に思います。

その反面、今まで皆さんが心配されていらっしゃるものが必ず出てくると思うので、本市については「生き抜く力」という大前提があるので、そういう風なことを外さないで、ICTの教育に現場で生かしていくことを目指していくっていう、そういう何か外すことのない柱のようなものを持ちながら、それを十分活用していくことが必要ではないかなと思います。今の社会で言ったらいろんなAIの活用について、色々なことがどんどん進んでいるので、もう私の頭でも考えられる事もどんどんもう進んでいる状況にもなっていることは確かなので、ぜひこれは、学力向上だけじゃなくて他の社会に出たときに「生き抜く力」としてそれが活用できる方法をぜひ身に付けさせ、やってほしいなという風に思っています。よろしくお願

します。

●市長

ありがとうございました。大変短い時間でしたが、活発なご意見をいただきありがとうございます。本市ならではのキーワードがたくさん出てきたのではないかと思います。市長としても、とても嬉しく思います。またこれからも子ども達の為に全部みんなで一丸となってやっていきたいと思えます。いただいたご意見を踏まえ、子ども達の夢に寄り添いながら、子ども達の「生き抜く力」を皆さんと一緒に育てていきたいと思えますのでどうぞよろしくお願ひします。今後も本市の教育のさらなる充実発展に向け、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。事務局にきちっとお返します、はい。

●事務局

本日は、長時間にわたり、真摯なご協議をいただきありがとうございました。それでは、以上をもちまして「第13回周南市総合教育会議」を終了いたします。ありがとうございました。